

住民と議会をつなぐ

すみた 議会だより



No. 185

令和6年
4月26日

「春を探しに
レッツゴー！」

《有住保育園》 関連記事 20P

3月議会のあらまし

施政方針ピックアップ

②

人口減や災害多発化に対応
令和6年度予算審査特別委員会

④

6人の議員が一般質問

⑨

どうなりました あの提言

⑱

岩手県住田町議会



まちの資源を最大限活用 町民力を結集し 「共生のまち住田」実現へ

第3回定例会
(3月議会)
あらまし

町長の施政方針2024 Pick Up!



神田謙一 町長

医療

在宅医療の充実

将来を見据えた保健・医療・福祉・介護のあり方について検討を推進。新たな取り組みに着手します。

公共交通

地域公共交通計画を策定

地域特性に応じた移動手段確保の実現を目指します。

ふるさと納税

町産品の販路拡大

近隣自治体との連携を強化し、共通返礼品の設定に取り組みます。

栗木鉄山跡

保存と活用の整備検討

多方面より、広く意見を聴取し、整備の検討を進めていきます。

住田中学校

学校施設的环境整備

新たな統合中学校がスムーズにスタートできるよう努めます。

職員派遣研修

小さな拠点で派遣研修

職員の人材育成のため、小さな拠点づくり派遣研修を実施します。

3月定例会は、2月27日から3月8日までの11日間の会期で開かれました。町長施政方針演述、教育長教育行政演述の後、6議員が一般質問に登壇。町政諸課題について議論を交わしました。

その他、令和5年度各会計補正予算、条例の制定や改正、指定管理者の指定、町道路線の認定と変更、令和6年度当初予算案など全40議案と専決処分1件、発委1件を審議し、全て原案のとおり可決、承認しました。



△ 社会福祉協議会との連携により、手すりの位置や収納設備など、入居者への細やかな気配りが施されている

町営住宅の設置

住み替え着実に

3戸新築 下有住団地

住田町営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正

用途廃止

中上団地 1戸
(下有住字中上
199番地)

新築整備

下有住団地 3戸
(下有住字中上
336番地)

構造・面積

木造平屋
(36・30㎡)

構造・面積

木造平屋
(46・37㎡)

建設年度

昭和38年

■第9期所得段階別介護保険料

保険料段階	課税状況	対象者	介護保険料(円)	
			月額	年額
1段階	非課税世帯	・生活保護受給者 ・合計所得+課税年金収入が80万円以下	2910 (1820)	30900 (21800)
2段階	非課税世帯	・合計所得+課税年金収入が80万円超120万円以下	4390 (3100)	52600 (37200)
3段階	非課税世帯	・合計所得+課税年金収入120万円超	4410 (4390)	52900 (52600)
4段階	課税世帯 (本人非課税)	・合計所得+課税年金収入が80万円以下	5460	69100
5段階 (基準)	課税世帯 (本人非課税)	・合計所得+課税年金収入が80万円超	6400	76800
6段階	本人課税	・合計所得120万円未満	7680	92100
7段階	本人課税	・合計所得120万円以上210万円未満	8320	99800
8段階	本人課税	・合計所得210万円以上320万円未満	9600	115200
9段階	本人課税	・合計所得320万円以上420万円未満	10880	130550
10段階	本人課税	・合計所得420万円以上520万円未満	12160	145900
11段階	本人課税	・合計所得520万円以上620万円未満	13440	161200
12段階	本人課税	・合計所得620万円以上720万円未満	14720	176600
13段階	本人課税	・合計所得720万円以上	15360	184300

※ () は低所得者軽減後の保険料

6年度からの
介護保険料
基準月額額は
6400円
現行比で
100円増額に

令和6年度から3年間を期間とする町老人保健福祉計画・第9期介護保険事業計画を策定。65歳以上が対象となる第1号被保険者の介護保険料(基準月額)は6400円で現行比100円の増額。

人口減少に伴う若い世代への過重な負担を先送りせず、介護サービスを安定的に維持していくため、介護給付費準備基金を活用しながら、緩やかなペースで負担を求めていく。

督促手数料の廃止

これまで

町税や保険料などを滞納した方へ督促状を発送する際、実費負担として1件につき100円を徴収してきた。

これから

納税システムの変更や郵便料の値上がり、県内市町村で督促手数料の廃止を進めていることなどを考慮し、全ての督促手数料を廃止とする。

変更請負契約の締結

滝観洞観光センター受付棟新築工事

277万6400円を増額し、変更請負契約を締結。

契約金額

変更前 1億2320万円

変更後 1億2597万6400円

変更理由

よう壁工事の際に岩盤などが発掘され、転圧作業や水道敷設などに支障が生じ、追加工事が必要となったため。

指定管理の同意



高齡者生活福祉センター(アンルス)の管理者を

住田町社会福祉協議会

(世田米字川向96番地5)に指定することに同意。

指定期間は令和6年4月1日からの3年間。



農林水産物直売・食材供給施設(ぼらん)の管理者を

住田観光開発株式会社

(世田米字子飼沢30番地39)に指定することに同意。

指定期間は令和6年4月1日からの3年間。

発化に対応 課題を審議～

令和6年度の一般会計予算、国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療の各特別会計予算、簡易水道・下水道の各事業会計予算は3月4日から6日の3日間にわたり予算審査特別委員会（荻原勝委員長）で審査しました。委員の質疑からいくつかをお知らせします。採決では、全会計予算が全会一致で可決されました。

教育

住田中学校が新設開校

学習環境が快適に

○住田中学校の施設整備 704万円
(エアコン・トイレなど)

問 新設される住田中学校の施設整備の内容は。

答 統合により3年生の教室が変更となることから、有住中で使用したエアコンを移設し活用する。生徒用のトイレについても改修を予定している。

地域と共に歩む部活

○部活動指導員配置 56万円

問 中学部活の地域移行をどう考えるか。

答 地域移行は、体育協会、スポーツ少年団、各競技協会、中学部活動育成会などが参加する関係者会議や総合教育会議で、検討している。今後は、統合中学校の円滑な運営を最優先に7月ごろの会議を考えている。



△ 新たな歴史の第一歩となった住田中学校開校式

町民の声

中学生にとっては、部活動は大きな関心事です。存分に活動できる条件を整えてほしい。



水野 審さん
(下有住字中上)

DX

住民利便性向上

町民のデジタル活用を

○自治体DX推進事業 2222万円

問 自治体DX推進には、住民ひとりひとりの参画が重要と考えるがどうか。

答 昨年3月に策定した住田町DX推進計画および住田町DX推進計画アクションプランに基づき自治体DXを推進している。幅広い世代がインターネットやデジタル端末を活用できるように取り組む「デジタルデバインド対策」が重要であり、

スマートフォン使い方講座の開催、広報やホームページ、住田テレビなどを通じて町民の理解を得ていきたい。

町民の声

スマホは電話が主ですが、最近SNSを始めました。レベルアップできるスマホ講座を。



佐々木輝昭さん
(上有住字山脈地)

令和6年度
一般会計予算
ほか5会計予算
を可決

人口減や災害多 ～未来へ向け

予算審査特別委員会

令和6年度 各会計予算の前年度との比較

区分	令和6年度	令和5年度	伸び率	
一般会計	51億6600万円	50億3500万円	2.6%	
特別会計	国民健康保険	7億171万円	6億6180万円	6.0%
	介護保険（保険・サービス）	10億70万円	10億196万円	△0.1%
	後期高齢者医療	8667万円	8108万円	6.9%
企業会計	簡易水道事業（支出予算）	2億3701万円	2億3083万円	2.7%
	下水道事業（支出予算）	1億5433万円	1億8272万円	△15.5%
合計	73億4642万円	71億9339万円	2.1%	

保健福祉

在宅医療体制充実へ

保険料に基金活用

○介護保険費 1億4957万円

問 第9期の介護保険料額を将来推計値から試算すると月額6900円となるが、100円増の月額6400円となった。不足分は1億2千万円ほどある基金から取り崩すとしているが、今後の見通しは。

答 第9期は令和6年度からの「3年間」で3580万円の基金を取崩すことになる。第10期以降は、高齢者の利用状況や人数などさまざまな要素から検討。

オンライン診療スタート

○在宅医療等のあり方検討支援委託料

429万円

問 在宅医療におけるオンライン診療は、どのように進めるのか。

答 令和6年1月に住田地域診療センターでスタートした。あくまでも慢性期の患者が対象で、2回に1回はオンライン診療、もう1回は対面診療となる。

健康寿命の延伸を

○健康増進事業 1712万円

問 健康寿命延伸策を各分野と連携して取り組み、町の活性化につなげるべき。

答 健康は自助が基本だが、健診や健康教育、ミニデイサービスなど既存の施策のほか、スポーツや生涯教育、農林業などとも連携し健康寿命の延伸に努めたい。



△ ミニデイで介護予防

（下有住字奥火の土）
菅戸みどりさん



保険料が抑えられて安心しました。介護保険を使わないよう健康づくりに頑張ります。

町民の声

防災

もしもの災害見据えて

防災訓練を実践的に

問 自助・共助力アップのための防災組織の人材育成をどう進めていく考えか。

答 自助7割、共助2割、公助1割と言われている。今後は、自治公民館や自主防災組織が自助・共助の核となり、そこを行政が支援する。自主防災組織強化策としては、防災士の育成を継続するほか、町総合防災訓練をより実践的にし、町独自研修会では個々の役割を明確化するなどして共助力向上を進めていく。

介助業務を社協へ委託

○避難所用資機材購入費 100万円
○避難所運営補助委託事業 203万円

問 避難所運営補助業務の内容は。

答 災害時、避難所を開設した際に介助が必要な避難者がいる場合、その避難者に対応する。また役場職員も介助方法を指導してもらうなどして、避難所の円滑な運営を図る。委託先は社会福祉協議会である。

消防指令システム更新

○大船渡地区消防組合分担金

2億3885万円

大船渡地区消防組合の分担金は昨年度比で7000万円ほどの増額となった。これは10年に一度の大規模な消防指令システムの更新によるものであり、今後の広域化や共同運用も念頭に置いている。



△ 大船渡地区消防組合通信指令センター

町民の声

救急搬送の多い住田町では、より迅速で適切な対応が求められる。新システムに期待。



（世田米字世田米駅）
菊池実行さん
きくちみゆき

農林業

農地づくり森づくり

微生物で土壌改良

○高機能バイオ炭実証試験事業委託料 245万円

問 高機能バイオ炭の取り組みを今後どう進めていくか。

答 高機能バイオ炭は、名古屋大学のベンチャー企業が行っているもので、もみがらや畜糞などの資源を炭化し、微生物を付着させて生成し、土壌改良剤として活用する。町内には鶏糞炭化施設もあり、より有効に活用できるのではと考えている。令和6年度には圃場を確保し、実証圃の取り組みを進めていきたい。

スギ花粉症対策へ

○花粉の少ない森林への転換促進対策事業補助金 1000万円

問 スギ花粉症の発生源対策に沿った山林づくりをどう考えているか。

答 国はスギ花粉症を深刻な社会問題と捉え、発生源対策、飛散対策、発症対策の3本柱を推進している。本町の発生源対策としては、まず町有林で花粉の少ないスギ苗木への植え替えを進める。今後、私有林支援のあり方も検討していきたい。森林事業体への生産力強化助成なども講じていく。

既存施設を有効に

○種山ヶ原体験交流センター管理事業
(旧遊林ランド) 486万円

問 種山ヶ原体験交流センターの今後の利活用をどのように捉えているか。

答 森の保育園の休憩場所として利用している。今後の活用方法に関しては、各課横断的に検討していきたい。

問 これまで森林（もり）の科学館構想を県に要望してきた。種山ヶ原体験交流センターを活用し、実現に取り組んではどうか。

答 森林（もり）の科学館構想は、最初に要望した時点から社会状況や県の立場が変化している。既存施設を有効活用したい意向はある。良いアイデアがあれば県と共にあり方を検討していきたい。



△ 令和3年に国指定史跡となった栗木鉄山跡

鉄山跡整備検討へ

○栗木鉄山跡地整備事業 105万円

問 栗木鉄山跡に関する整備や今後の取り組みは。

答 栗木鉄山跡整備検討委員会を開催し、検討する。国史跡への指定の際に協力を受けた指導員6名に加え、保存科学や公園整備、観光、地域経済の代表者などが参加者となる。栗木鉄山跡と種山ヶ原の連携についても話し合っていきたい。

予算審査特別委員会



町民の声

遺跡保存や案内のしやすさのために、保護用ブルーシートに水や葉が溜まらない設備を。

(世田米字川向) 鈴木英司さん

まちづくり

町の課題を発掘

「提言できる」
地域おこし協力隊

○地域おこし協力隊設置事業（提案型）
1247万円

問 提案型の地域おこし協力隊設置事業とは、どのような取り組みか。

答 これまでは町が事業展開を指定して地域おこし協力隊員を募集してきた。提案型は、隊員側の主体的視点でよりよい地域活性化を実現することを目指すもの。

「住田町にはこんな課題がある。こういった事業展開をしたらどうか」など提案してもらおう形となる。3名の募集予定。



町民の声

地域活性化のために、新しい視点での提案、明日に向かう活動・活躍を期待しています。

(世田米字向村) 菅野正司さん

多様な支援に活用 目的を達成

大震災復興基金を 廃止

東日本大震災復興基金
条例を廃止する条例



△ 震災伝承施設に登録されたイコウエルすみた展示棟

残高は一般会計へ
繰り入れ

「東日本大震災復興基金」は平成23年創設。復興に係る交付金や一般社団法人モアトゥリーズ（東京都）からの寄付金などを積み立ててきた。基金は、コミュニティー形成支援や復興モデル住宅（町営住宅）整備、イコウエルすみた整備などに活用。残高の約3000万円は、一般会計に繰り入れる。

町道の認定・変更

旧国道340号

町道に移管へ

認定路線

・蔵王洞線

358・4m

・山脈地恵蘇線

336・8m

・ひつわり線

86・6m

（旧有住中学校前）

変更路線

・山脈地ひつわり線

変更前

923・3m

変更後

859・0m

（ひつわり橋の

廃止に伴う変更）



△ 町道に認定された蔵王洞線

手数料条例の一部を改正する条例

- ・戸籍電子証明書の提供に必要となる識別符号の発行を1件につき400円とする。
- ・除籍電子証明書の提供に必要となる識別符号の発行を1件につき700円とする。

住田町職員の高齢者部分休業に関する条例

定年延長の職員を対象とする休業制度。通院などの際に取得できる。

住田町付属機関の設置に関する条例の一部を改正する条例

中高一貫教育校設置推進委員会を廃止する。

選挙管理委員、同補充員を 選挙

1 選挙管理委員

氏名	住所
高橋美枝子	下有住字十文字106番
紺野 敏郎	世田米字竹ノ原58番地
大和田文雄	世田米字田谷16番地
熊谷 公男	上有住字天獄26番地3

2 選挙管理委員補充員

氏名	住所
佐藤 鉄男	世田米字啜畑9番地2
紺野 恵子	上有住字松山58番地2
千田 三子	世田米字川向12番地2
水野 司	下有住字新切41番地

議員のなり手対策に

議員の請負の状況の公表に関する条例制定

これまで議員個人が自治体に対して請負をすることは、地方自治法において禁止されてきた。近年、地方議員の担い手不足が課題となっており、地方自治法が改正され、請負の定義明確化と議

員の請負規制を緩和。自治体と継続的な取引がある議員は、年間の取引額が300万円以下であれば、令和5年度より事業請負が可能となっていた。

今回の条例制定により、請負のある議員は、金額や概要を議長に毎年報告し、公表することが義務付けられる。

登壇！

一般質問

災害対策、総合計画 公共交通などを議論

ページ	質問者 (登壇順)	質問項目
10	おぎわら 荻原 まさる 勝	①町民の移動手段確保
11	たきもと 瀧本 まさのり 正徳	①次年度に向けての町施策の推進 ②住田町DX推進計画
12	あへ部 阿部 ゆういち 祐一	①防災対策 ②農業の振興策
13	ささき しんいち 佐々木 信一	①人口減少対策
14	きんの 金野 ちづ 千津	①防災に関する町の取り組みと地域住民組織との連携 ②住田町における男女共同参画の取り組み状況 ③第9期介護保険計画
15	むらかみ 村上 かほる 薫	①防災・安全対策 ②令和6年度の重要課題

町の考えを問う

一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたって、執行機関に対し、施策の状況や将来の方針など、所信や疑問点をただすことができる重要な議員活動の場です。1回目の質問事項は、事前に執行機関へ通告されており、全項目を一括して質問。2回目以降の再質問は、1問1答方式で行っています。持ち時間は、答弁を含めて一人あたり60分です。ここからは、主な質問と答弁を要約した内容を登壇順にお知らせしていきます。

▼QRコード



全文記録（議事録）は、役場庁舎2階の総務課と町のホームページ上で閲覧できます。
(QRコードで議会ホームページへ直接進むことができます)

問 町民の移動手段確保を

答 公共交通計画策定へ

問 高齢による免許返納などの諸事情でタクシーの移動を選択せざるを得ない方々への支援をどう考えているか。

答 町長 送迎を頼めないことやバス停まで遠いことなどの理由から公共交通を使うことが難しいと感じている住民が一定数おり、当町の地域課題のひとつである。重度障害者に対しては、福祉タクシー助成事業を実施している。タクシー利用への支援拡大は、バス運行との競合などがあり、多方面からの検討が必要である。

問 路線バスやコミュニティバスは、近年、利用者が減少傾向にある。バス利用促進の取り組みが必要ではないか。

答 町長 町総合計画事業評価などのアンケート結果で、公共交通機関を全く使わないと回答した81・3%の人たちへの動機づけが必要。令和6年度に地域公共交通計画を策定する。事前アンケートなどにより町民ニーズを把握し、利用促進を図りたい。



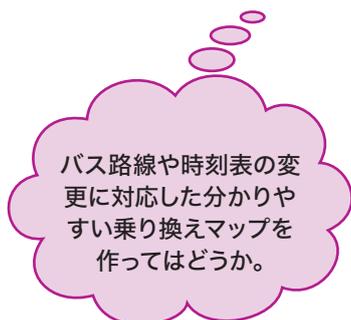
△ 小型電気バスの実証実験が陸前高田市で行われた

問 スクールバスの混乗化をどう考えるか。

答 町民生活課長 一定の要件を満たせば一般住民の混乗化は認められる場合がある。スクールバスは子供たちの通学のためという大前提があり、その目的に反しない検討が必要となる。



おぎわら 荻原 まさる 勝 議員



議員のつぶやき

町の考えを問う

問 周辺市との交通連携は

答 広域的ネットワーク形成で

問 地域公共交通計画における周辺市との連携についてどう考えているか。

答 町長 計画の対象区域は陸前高田市、大船渡市など。またがる広域バス路線が複数運行されて

いることから、近隣市と連携を図りながら、地域公共交通の広域的なネットワーク形成に取り組んでいきたい。

問 地域公共交通計画の策定では、全国他市町村の事例なども参考にしてはどうか。

答 町長 地域課題を解決する手法として、全国の自治体の事例を参考としたい。小型バスやタクシーのAIデマンド化、ロボバスの自動運転などの実証現場を視察し、検証や検討をしていく。

問 次期総合計画策定は

答 住民懇談会を開催

問 少子・高齢化、人口減少と大きな社会変化の中、5年・10年先の将来に向かう次期総合計画作成に当たり、住民との直接対話の機会を設けるべきでは。

答 町長 現計画の施策成果や課題を把握し、時流や町の特性を踏まえ、素案・骨子を作成。懇談会を開催し、町民の意見を受け総合計画成案作業を進める。

獣被害対策強化を

問 深刻な鳥獣被害対策は強く進めるべき。捕獲後のより良い処理や加工施設の整備を。

答 町長 ニホンジカを中心に毎年千頭前後の有害捕獲を実施。捕獲した個体は埋却などの処理がされている。現状ではジビエ加工などの施設整備は考えていない。

問 鳥獣保護との共存の観点から、鳥獣が山で生息できる山林環境整備を進めるべき。

答 町長 町内山林は餌場となる広葉樹が多い環境である。町有林の造林不適地では広葉樹林への天然更新を図っている。補助制度を活用し私有林の整備を進めており、すみ分けゾーン、緩衝帯の設置に効果があると捉える。



まさのり 正徳 議員
たきもと 瀧本

待ったなしの変革の時代、迎え撃つ心と姿勢で臨みたい。

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 進めよ地球温暖化防止策

答 再生可能エネ活用を推進

問 地球温暖化防止策に繋がる二酸化炭素の削減は、意識的に取り組むべき社会的課題である。町再生可能エネルギー活用推進計画の進捗状況は。

答 町長 木質バイオマスエネルギーは公共施設などに導入している。推進計画では、太陽光や風力についても、自然環境と調和しつつ民間事業者などによる導入を支援する。

DX推進計画は

問 住田町DX（デジタルトランスフォーメーション）推進は、仕事や生活をより良く変容させるため。計画の進捗、町民利便性は。

答 町長 住民サービスの向上に向けた体制と取組み事項の検討をしてきた。令和6年度は窓口手続き・公共施設予約システム・コンビニ納付の導入に取り進む。



△ 町内で初めて設置された世田米保育園のペレットボイラー

問 どう見通す消防団再編

答 将来的には避けられない

消防団の現状をどう捉え、今後の団員確保をどう進めるのか。

令和3年度から団員の減少傾向が顕著となっている。令和5年4月時点で定員380名に対し、団員330名。充足率は78・9%で団員数の減少は課題と捉えている。

団員の確保対策として、知人・友人を通じて、団員の勧誘や消防団員協力事業所の設置など、様々な取り組みを行っている。消防団との意見交換を継続しながら、有効な団員確保に努めていきたい。



△ 各地区の自治公民館長を対象に開催された防災リーダー研修

今後の消防団組織再編の見通しをどのように捉えているのか。

団員数の減少はあるが、現在の6分団18部で構成される組織は維持できると考えている。

自主防災組織と消防団による連携は、極めて重要であり、地域防災力に直結する。防災リーダーの育成や町総合防災訓練で、さらに工夫した連携強化の訓練を実施していきたい。

将来的には、消防団の再編は避けて通れないものと捉えている。

人・農地プランの實質化を進め、担い手に優良農地の集積を進めるとしているが、進捗状況はどうか。

本町の農林業振興会では、19の人・農地プランを策定。現在は、目指すべき将来の農地となる目標地図を盛り込んだ地域計画の策定を進めている。令和5年度は、農地集積が進んでいる1地区をモデルとして策定に着手。その後、意欲ある担い手が活動している他の4地区でも、地域計画を作成することができた。残りの地区においても地域の合意形成を

町内生産の堆肥を活用した耕畜連携が進められているが、成果と普及促進をどう捉えているか。

これまで子実用トウモロコシの実証農地に豚糞堆肥を活用してきた。令和5年度は、鶏糞ペレットを活用した水稲の実証栽培を実施。慣行栽培と比べ、生育が良く多収量となり、肥料費の軽減が図られた。「住田町堆肥利用促進費補助金」を新設し、さらなる堆肥の利用促進を図りたい。

図り、計画の策定に取り組んでいきたい。

町内生産の堆肥を活用した耕畜連携が進められているが、成果と普及促進をどう捉えているか。

町内生産の堆肥を活用した耕畜連携が進められているが、成果と普及促進をどう捉えているか。

町内生産の堆肥を活用した耕畜連携が進められているが、成果と普及促進をどう捉えているか。



あべ ゆういち 議員 阿部 祐一

自主防災組織の強化は、消防団と各公民館での想定訓練を積み重ねることが大事。

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 農地プラン進捗は

答 5地区で計画策定

問 目標人口の見直しは

答 達成に向け方向性継続

問 令和2年の国勢調査をもとに、国立社会保障・人口問題研究所が公表した令和32年の町の将来推計人口は、2475人であり、大幅な減少見込みとなりました。町人口ビジョンと最新の推計値との差をどのように捉えるか。

答 町長 令和2年の国勢調査をもとに、国立社会保障・人口問題研究所が公表した令和32年の町の将来推計人口は、2475人となり、大幅な減少見込みとなりました。町人口ビジョンと最新の推計値との差をどのように捉えるか。

問 町人口ビジョンは、平成30年推計をもとに策定。令和27年までの推計人口を示している。

答 町長 町人口ビジョンは、平成30年推計をもとに策定。令和27年までの推計人口を示している。

問 目標人口「2040年4000人」の見直しの必要性についてどう考えるか。

答 町長 目標人口は令和6年度の次期総合計画を策定する中で設定されるものと捉える。各施策の検証や課題の把握、様々な委員会や町民懇談会などを通して、検討が重ねられ確立されていく。現在は、目標達成に向け、引き続き各種施策の方向性を継続していくべきであると考えている。



ささきしんいち 議員
佐々木信一

人口減少が進んでいる。若者や女性が希望を持てる環境づくりが大事。

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 雇用確保で魅力づくりを

答 地元定着へ施策推進

問 人口減少により、担い手不足や税収減、集落や産業の維持が困難になると考える。町内外や幅広い世代に向けて、働く場所の確保や生活環境の整備などの魅力あるまちづくりを推進していくことが重要と考えるがどうか。

答 町長

若者の職場確保や定着を促進する助成制度として、「新規学卒者雇用促進奨励金」や「若者職場定着奨励金制度」を整備。若者や若者を雇用する事業所を支援することで、地元

定着に努めている。新たな事業を創出し、起業しようとする個人などに対しては「住田町起業奨励金」を整備。一定の効果があつたと捉えている。集落や産業の維持には、人口減少対策が重要である。子ども達を含め、今いる方々に定着してもらえよう。移住定住策や「イコウエールすみた」の活用による関係人口や雇用の創出、住民所得の向上や産業振興に係る取り組みをさらに進めていきたい。



△ 住田町起業奨励金などを活用している町内事業所

問 どう対応 要支援者避難

答 新たに個別避難計画策定

問 高齢者や障がい者への避難対応は。

答 町長 ケアマネ、保健福祉課などが中心となつて「いつ、どこに、だれと、どのように」避難するかを明確にした個別避難計画を策定する。対象は身体障害者手帳1・2級、介護保険の要介護3以上の方を基本とする。

問 福祉避難所はどこを想定しているか。

答 町長 町内4カ所の高齢者施設を想定しているが、地区により避難場所を限定せず、他の公

問 防災リーダーの今後の活動は。

答 町長 防災士育成も行っており、自主防災組織を中心に、自助・共助の役割を高め、組織力の充実強化を図る。令和6年度に予定されている総合防災訓練でリーダーとして活躍していただく。

問 残された課題と今後の取り組みは。

答 教育長 委員会等における女

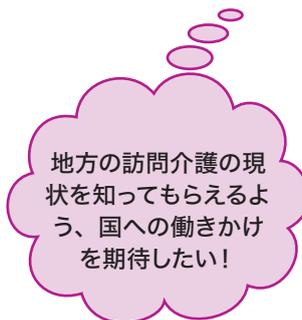
問 訪問介護報酬の引下げをうけ、町内訪問介護サービス事業のあり方をどう捉えるか。

答 町長 広く山間部に住居が散在している当町においては、在宅訪問事業は、高齢者や障がい者にはなくてはならないサービスである。関係機関と連携を図りながら、介護事業所の人材確保と、研修の実施などによる人材育成を支援していきたい。

△ 町内どこへでも訪問し、高齢者や障がい者の生活を支える訪問事業



きんの ちづ 議員
金野 千津



地方の訪問介護の現状を知ってもらえるよう、国への働きかけを期待したい!

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 町の男女共同参画は

答 男性の家事時間増加

問 男女共同参画の取組の成果は。

答 教育長

共働き世帯では女性の家事時間が圧倒的に多かったが、最近では男性の家事時間が増加傾向にあると捉えている。保育料の無償化は、女性の働きやすい環境整備にもつながっている。住田高校での研修では「男女の職業観や家庭内での役割分担への思い込みを解消したい」などの意見が寄せられ、若者の意識改革が重要と捉えている。

性委員の割合30%以上を指標としてあげているが、令和5年度の実績は20%であり達成には至らなかった。令和5年度は新たな男女共同参画サポーターが生まれなかったため、教育委員会職員も含め、養成講座研修にも取り組むたい。

問 どう守る 訪問事業

問 訪問介護報酬の引下げをうけ、町内訪問介護サービス事業のあり方をどう捉えるか。

答 町長

広く山間部に住居が散在している当町においては、在宅訪問事業は、高齢者や障がい者にはなくてはならないサービスである。関係機関と連携を図りながら、介護事業所の人材確保と、研修の実施などによる人材育成を支援していきたい。

問 地域防災計画見直しは

答 早期成案化を図る

問 能登半島地震の教訓を含め、町地域防災計画の適切な見直しが必要と考える。計画の見直しと防災会議をいつ頃予定しているか。

答 町長

町地域防災計画は、最後の改正から約8年が経過。令和5年度より改正作業を進めている。改正後、早期に防災会議を開催し、計画の成案化を図る。

問 町内における孤立化想定地域への対策はどうか。

答 町長

火の土、蓬畑、松山の3カ所を想定しているが、精査が必要と捉えられる。できる対策は限られるが、当該自主防災組織と意見交換を行いながら、ソフト対策を含めて取り組んでいきたい。

問 町内居住外国人への緊急時（火災・地震津波など）の対応研修が必要と考えるが。

答 町長

町内における外国人居住者の大半は、技能実習生であり、122名（R6年1月末時点）となる。各事業体では、安全衛生教育を実施。今後は、事業者と連携し、防災に係る研修も検討をしていきたい。

オンライン診療とはパソコンやタブレットを活用することで、病院に行かなくても診察や処方を受けられる医療サービス。



むらかみ 村上 かおる 薫 議員

かつて「災害は忘れた頃にやってくる」だったが、今は「災害は忘れないうちにやってくる」に変わった。

議員のつぶやき

町の考えを問う

問 どうなる在宅医療の取り組み

答 オンライン診療の開始

問 新年度、「在宅医療等のあり方」で新たな取り組みが始まる。具体的な内容は。

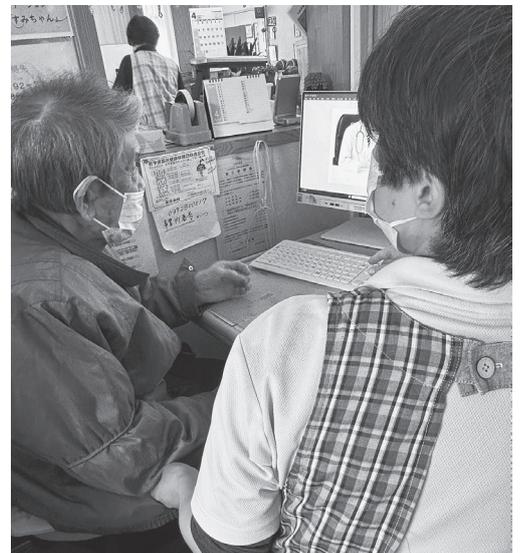
答 町長

令和5年7月に町の「在宅医療等のあり方検討会」を設置し、実務者レベルで検討を進めてきた。令和6年度からは、訪問看護ステーション「すみちゃん」のポータルエコーの導入や住田診療センターでのオンライン診療、要支援者への個別避難計画の作成などの取り組みが開始される。

問 第10次教育振興基本計画において、中央公民館整備は、令和6年度の設計とされている。見直しはどうか。

答 教育長

計画は令和3年度に策定し、協議を進めてきた。公民館や図書室などの施設機能、庁舎周辺整備計画の整理、今後の財政状況に関して、十分な検討が必要と判断。令和6年度の実施を見直し、協議を継続している。新たな開発計画の策定は、令和7年度を予定。



△ 住田地域診療センターと福祉施設間で始まったオンライン診療

設定課題を現状調査 解決への糸口を研究

常任委員会では、各委員会が計画した町政課題に係る調査事項や研究内容に基づき、当局との情報交換や意見交換を通じた状況調査や現地視察による事例調査、研修会を実施しました。ここでは、各常任委員会の活動報告と議会レポートをお知らせします。

産業経済常任委員会

委員長 佐々木 信一

調査事項

地域資源を活用した特産品開発

実施した活動

農政課との情報・意見交換

日時・場所

令和6年1月29日
議員控室

活動内容

どぶろく特区の取り組みやジビエの活用、ふるさと納税返礼品について、農政課と情報や意見を交換。

農政課の所見

・(どぶろく特区)
製造免許の取得など、ハードルは高いが、事業化を目指す人がいれば協力したい。

・(ジビエ活用)

東日本大震災以降、野生鳥獣は放射能汚染により、利用には全数検査が必須となっている。一部のハンターからは、解体処理施設整備を求める声がある。ジビエ事業を行いたいとの声は届いていない。

・(ふるさと納税返礼品)

現在、返礼品の取扱業者は31社となる。令和6年度は、近隣自治体や中間事業者との連携を図り、目標寄付額を5千万円と設定し、取り組みを進めていきたい。

視察調査①

ジビエ加工・販売

MOMIJI株式会社
(大槌町安渡)

日時

令和6年3月15日

ジビエの岩手ブランド化へ

MOMIJI(モミジ)では、大槌町内で捕獲された鹿を素早く処理し、熟成後に解体。冷凍生肉や加工品を全国へ販売しています。



△ 捕獲後はジビエカーで素早く加工場へ搬送



△ 全個体で金属探知検査、放射性物質検査を実施

ジビエ事業に取り組まれた経緯や歩み、プロジェクトの事業展開や今後の展望を伺いました。

MOMIJIの展望

①ジビエサイクル(捕獲、製造、流通、消費、体験、育成)により、持続可能な事業構造を実現。

②ジビエの事業化を推進する事業者や地域を支援。

③岩手のジビエブランド立ち上げを目指す。

視察調査②

農産物加工

宮守川上流生産組合
(遠野市宮守町)

日時

令和6年3月15日

加工場を見学

宮守川上流生産組合では、農業生産から商品開発、産直運営、委託加工に取り組んでいます。加工現場を見学し、どぶろくづくりや農産物の商品化についてお話を伺いました。



△ 素材をそのまま生かしたどぶろくやジュース

議会 レポート

謙虚さを 忘れずに

コンプライアンス (法令順守) 研修会

講師 第一法規株式会社
(東京都)
令和6年2月6日
生活改善センター研修室

昨今、国会議員をはじめとする議員の不祥事が増えています。議員の居眠りやセクハラなどに留まらず、資金管理の不備や裏金作りなど議員の資質を問う重大な事件も起きています。

当議会ではこのほど、議員としての道徳観や倫理観の捉え方も含めて、議員活動に関わる法令順守の研修会を行いました。



△ 議員全員参加によるコンプライアンス研修会

講義では、コンプライアンスの必要性をはじめ、議場での発言や活動資金の使い方など、実例も交えながら解説をしていただきました。

「選良」という意識に立ち、謙虚さを忘れずに、日々の活動につとめてまいります。

総務教民常任委員会

委員長 荻原 勝

調査事項

高齢者等の移動手段確保策

実施した活動

町民生活課との情報・意見交換



△ 町民生活課との意見交換会

活動内容

町の公共交通における

議員控室

令和6年2月6日

日時・場所

空白地域の 移動手段を

る現状や課題について、町民生活課と情報や意見を交換。

課題の主な要点

① コミュニティバスの利用者が減少傾向にあり、利便性の周知なども不足している。

② 町内には公共交通の空白地域があり、地域事情に配慮した交通支援策が必要。

今後の調査予定

乗り合いタクシーやタクシー助成の視察

広報編集常任委員会

委員長 水野 正勝

調査事項

次も読みたくなる身近な広報紙づくり

実施した活動

議会広報研修会、紙面構成検討会

活動内容

・岩手県町村議長会に

日時・場所

令和6年1月30日
イコウエルすみた

レイアウト 字数見直し



△ 広報研修会inイコウエル

よる広報担当者研修(令和5年11月)のブラッシュアップ研修会。

・議会日より184号に係る編集作業の振り返り。

・(新体制における課題や改善点の整理など)

・令和6年度(185号)からのより良い議会広報づくりの検討。

(文字数やレイアウトの見直しなど)

追跡レポート⑧ 一般質問その後 どうなりました

あの提言

住田高校に初 地域みらい留学生

議員が行う質問や提言が、町政にどう反映されているか。これまでの質問から一部を取り上げ、その後どうなったか追跡してみました。

質問

生徒確保対策で 県外者留学制度検討を

住田高校における生徒確保策として、他の自治体で展開されている山村留学制度を本町でも検討していくべきと考えるがどうか。

答弁

留学フェスタに参加 全国に住田高校をPR

教育委員会では、令和5年度「地域みらい留学フェスタ（東京）」に参加。各地の取り組みを研修すると共に、住田高校の魅力を全国にPRしてきた。

その後

令和6年度 県外留学生が入学



△ 新緑をむかえ、活気あふれる新年度がスタート



岩手県立 住田高等学校
地域みらい留学
2024年度新入生募集
TEL 0192-46-3141
FAX 0192-46-3144
〒029-2311 岩手県気仙郡住田町野田家字用112-1

△ 住田高校では、生徒一人一人の個性を尊重した魅力ある学校づくりに取り組んでいる

すみた想い人 15

町民の皆さんに登
場していただく企画
になります。町や議
会に対しての意見、
活動を通して「まち
づくり」への想いを
紹介していきます。



△ 住民に開放されている木工館（上有住八目町）

今回は、木工館（上
有住）の指定管理者で
あるアトリエ・リトア
の大村圭さんです。木
工作家としての活動や
今後の想いを伺いまし
た。「森林・林業日本
一を目指す」町の取り
組みの一端が見えます。

木工館を物づくりの場に



おおむら 大村 圭さん（世田谷区大田）

Q 木工との出会い
やきっかけは。

A 家具屋に1年半
勤めて、本格的
に機械の使い方を学び
ました。いつかケヤキ
やサクラなどの無垢の
木で家具を作ってみた
いと考えていました。

Q 住田町に来てか
らの木工との関
わりやいきさつは。

A 平成27年度から
開始された町の
「木育プロジェクト」
の一環である新生児用
木製品提供事業にワー

キングチームの一員と
して加わりました。

Q ワーキングチー
ムのリーダーと
して活躍されました。
どのような想いで取り
組まれましたか。

A 子どもたちが木
に触れ、木と暮
らすことを通じて、そ
の温もりを感じて成長
してほしいと考えてい
ました。

Q 今までどのよう
な木製品を製作
されてきましたか。

A 新生児用のス
プーンをはじめ
め、20歳の集いで贈呈
される名刺入れ、イコ
ウエルすみたや住田分
署のテーブルなど、家
具を中心に小ささまざ
まな木製品を製作して
きました。ふるさと納
税の返礼品としても提
供をしています。

Q 木工館への町民
の利用促進や活
性化策を伺います。

A これまでイベン
トを中心に取り
組んできました。今後
は、高齢者の方でも気
軽に集えるよう陶芸が
体験できる準備も進め
ています。木工館を物
づくりの場にしていき
たいです。

（連絡先）大村圭さん
080-1809-5951

議会を傍聴しよう!

町議会は誰でも傍聴でき
ます。次の6月議会の予定
は下表のとおり。
生活改善センター議会議棟
の入口から案内に従って傍
聴席へお入りください。

令和6年3月
議会の傍聴者は
13人でした



6月議会は

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

住田テレビ放映もどうぞ



本会議や一般質問の様子は、
住田テレビの「議会放送」でも
ご覧いただけます。
放映時間は午後6時からです。

わたしの未来

パート
17

住田町の子どもたちが 将来の夢を語る

コーナーです。
自薦・他薦も大歓迎。申し
込みをお待ちしています。

住田を有名に

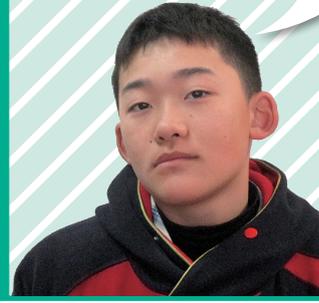
僕の夢は、**全国に通用するようなラ
ンナー**になって、みんなに住田を知ってもら
うことです。来てくれたら住田の良さを知って
ほしいと思います。そのために、体力をつけ
てスピードを出せるように頑張りたいと思
います。



有住小学校6年
ささき ゆめき
佐々木 夢稀
(上有住字山脈地)

プロ野球選手に

僕の将来の夢は、大谷翔平選手のような、
プレーだけでなく、**チームを大切にする
選手**になりたいです。そのために、バッテ
ィングや送球をしっかり練習し、試合ではピン
チに動じず、チームのみんなが頑張れるよう
に励ますことを心がけています。



世田米小学校6年
かのん しょうご
菅野 翔吾
(下有住字中上)

編集後記

広報編集常任委員会
委員 村上 薫

- ▼4月は寒い冬を乗り越え希望をもたらす季節です。
- ▼そのような中、有住中学校と世田米中学校が統合し、新しい住田中学校が船出をしました。生徒たちの活躍を期待します。
- ▼住田高校には、初めて県外からの地域みらい留学生が入学しました。生徒や学校、地域にどんな化学反応が起きるのか楽しみです。
- ▼議会だよりは、町民の皆様と議会をつなぐ重要な媒体です。肝に銘じて編集に取り組みます。

表紙の写真



有住保育園

桜が咲き始めた4月。一足早く大きなこいのぼりが泳ぐ有住保育園には、元気に遊ぶ子どもたちの姿がありました。図鑑を片手に花を探す子、おにごっこに夢中な子、ピカピカの泥だんご作りに励む子など、十人十色で春を楽しむ子どもたち。「春があったよ」と、小さな白い花を差し出してくれた子もいました。少し視線を下げることで、普段は気付かないような小さな春の訪れを感じることができた一日でした。

広報編集常任委員会

発行責任者

議長	佐々木 春 一
委員長	水野 正 勝
副委員長	荻原 正 勝
委員	阿部 祐 一
	村上 正 千
	村瀬 正 千
	金野 正 千

